

CHAPTER 4 : ROLES AND RESPONSIBILITIES

- 役割と責任 -

4.1 導入

この章の目的は、EPRの下における責任を要約し、誰が生産者であるかを明確にすることである。また、他の行為者の役割とEPRにおける潜在的な相互関連、責任の配分、責任を割り当てる際に考慮すべきことについても述べられている。

4.2 背景

OECDのプログラムの中で、take-backは共通に行われていて最も選ばれている手法である。また、take-backに関する状態や問題の大部分は他のEPR手段にもあてはまる。

take-backについて述べれば、各国の政策決定者がtake-backだけでなく他の政策手段の問題や必要性を評価する際に役立つ。

4.3 責任の範囲

EPRの主意は、使用後段階の製品に対する責任を拡大することである；納税者や地方自治体からそらせ、製品の生産者に向ける。

政府が、*いつEPRを展開させるか

*責任は何を意味するか(4.3.1)

*責任をどう割り当てるか(4.4~4.6)

を検討する時のために、責任の範囲について言及する。

4.3.1 責任の意味

EPRの下では2つのタイプの責任がある。

物理的責任：使用後段階の製品の物理的処理における直接または間接的な責任

金銭的責任：使用後段階の製品を処理する際、生産者が全てまたは一部の費用を支払うという責任

Thomas Lindqvistはこの2つの他に、製品に関する情報、法的責任、所有という3つのタイプの責任を特徴づけた。

生産者に責任を割り当てた(これらの)方法は、政府が製品連鎖の中の多様な行為者に責任割り当てる際に役立つ。

4.4 生産者の定義と負うべき責任

生産者とは、*多数の利害関係者に責任を受容させる際に影響力を持つ

*自らの製品の環境的なインパクトに影響を与える、つまり市場の誤りを正すという立場にいる。

また、EPR政策を *成功させるためには生産者のリーダーシップ

*実行するには責任の配分が必要である。

4.4.1 誰が生産者か？

生産者は、製品連鎖の中の他の行為者よりも製品を(環境負荷の少ないものに)変化させ易い立場にあり、製品の使用後段階における物理的かつ/または金銭的責任を負い、

*EPRプログラムの目的を満たすよう製品を改良する

*製品工夫や再設計、より無駄の少ない製品の奨励をする

*再使用または再利用し易い製品を作る

のに最良の立場にいる。

生産者が原料選択かつ設計に関する決定における統制を行えば、EPR は最も効果的である。

耐久消費財の場合：生産者とは、製造業者，ブランド会社，輸入業者

包装の場合：生産者とは、包装の中身を生産した者

a) 明確な責任

EPR 政策の下では明確な責任を割り当てられたある 1 つの行為者が必要であり、ほとんどの場合が生産者である。

しかし、プログラムが確実に実行されるためには他の行為者にも責任を割り当て、共有することが重要だ。 Ex) ドイツの容器包装政令

4.4.2 他の責任の組み合わせ方

a) 責任共有

① 地方自治体と生産者との共有

② 生産者と、製品連鎖の中の 1 つまたはそれ以上の行為者との共有

③ 生産者は使用後製品の物理的処理にかかる費用を負担し、自治体は物理的処理の部分的責任を負う。

a 自治体：使用後製品の回収かつ選別について物理的責任

(一部または全て)

生産者：金銭的責任

物理的には使用後製品の回収，処理

b 自治体：従来の責任(物理的かつ金銭的責任)

生産者：処理や処分にかかる追加費用

部分的処理費用の内部化 Ex) フランスの包装政令，日本の容器包装リサイクル法

④ 生産者は明確な責任を持ちかつ EPR プログラム推進をリードする。

⑤ 生産者が製品回収のためリサイクル業者と合意に至る

⑥ 生産者がデポジットを回収しリファンドを供給するため小売業者と合意する

⑦ 小売業者が回収費に責任を負い、その費用を政府または民間の団体に配分する

b) 割り当てられた責任

製品連鎖の中の各々の行為者に責任を割り当てるという責任共有の方法であり、行為者に行き届く EPR に関する情報が増大するというメリットがある。

全ての行為者が公平にプログラムに参加しているという確信が必要である
全参加の確信、ただ乗り防止のため、プログラムはチェックとバランスを
考えて構成されるべきである

参加に対するインセンティブや報酬により参加増進

不参加に対する制裁

この方法は、製品連鎖の長さが相対的に短くかつ関連する生産者数が多数
ない場合に最適である。

4.5 責任の配分

生産者(かつ他者)への物理的かつ金銭的な責任には、いくつかの選択肢と組み合わせがある。

フランス，日本の場合：4.4.2 a) - ①

ドイツの場合：金銭的かつ物理的責任は生産者にある
政策決定者は政策目標と実際に実行されたものの関係において、責任の配分の限界について再考すべきである。

4.6 責任を割り当てる際に考慮すること

- *政策目標を定め、目的を作る
- *製品、製品分類、または種類に関する特徴
- *市場の活発性
- *製品連鎖とそれに関する全ての行為者の特定
- *政策の発展、実行、監視、監視への従属に必要な手段

4.7 誰が支払うのか？

納税者の税金によって財源を得る地方自治体が市町村の固体廃棄物の処理を引き受けてきた。

EPR の原理的説明：

増加した廃棄物からの追加的な圧力への納税者の支払い負担

納税者

↓ 財政管理をシフトさせる

製品から利益を得るもの = 生産者

負担を減少できる。

EPR 政策 → 生産者に製品の処理によって社会的費用の吸収を促進させるというインセンティブを与えるように設計すべき。

生産者は製品の内容を変えることが最も容易である。

避けられない費用は製品の値段に組み込まれても良い。

生産者と消費者が（納税者の代わりに）社会的費用を支払うであろう。

4.7.1 資金メカニズム

EPR の基本的な問題点：消費後段階の廃棄物の回収と処理の資金をどのように集めるか？ = 資金メカニズムの問題

資金メカニズム → 特定の選ばれた手段・製品・製品グループや部門に依存

生産者：税金 or 料金による支払い

消費者：製品の値段 or 料金による支払い

（または、上記の組み合わせによる）

* 責任のシフト

地方自治体 → 生産者のインセンティブへの責任のシフト

参) ANNEX 1.1

スウェーデンの自動車テイクバックプログラムの金銭的メカニズムの効用についてのケーススタディー

4.7.2 製品の最終価格への費用の内部化

EPR 案の支払い方法 → 「費用の内部化」段階の支払いを限定

○ 社会的費用・外部費用の内部化

→ 財政的責任全てが自治体から生産者と消費者へ移動した時可能

生産者 → 使用済み製品の処理、処分に関する費用削減の為に

製品のデザインを変えることを誘発する。

使用済み製品の処理のための付加費用を製品価格に加える

○ 部分的費用の内部化 → 部分的に生産者によって支払われる

生産者と自治体が責任を分け合う方法

e.g.) フランスの容器包装政令

費用内部化に関する決定は孤児製品や現存の製品、そして製品独自の性質

に基づいて考慮されるべき問題として決定されなければいけない。

4.8 政府の役割

政府の役割 → 重要な役割を担う

EPRの法律的な政策枠組みの設立。

特別な契約や、自主協定についてのパラメーターを定める。

* 政府は EPR プログラムの有効性に以下のように貢献できる。

プログラムへの注意と要求を増やす。

EPR の目的と矛盾するポリシーの削除。

支えとなるポリシーや政策の実施。

EPR 案と矛盾する障害の削除や移動。

フリーライダーや反競争的態度の防止を助けるメカニズムの設立。

政府は政策の枠組みを決定する事ができる。

政府は矛盾する政策を削除すること & EPR を拡大するために政策を

拡大、増加させることで EPR の効果に貢献できる。

4.9 地方自治体の役割

地方自治体 → 国民に EPR プログラムの情報を発信する手段となりうる。

- 役割
 - ・ 廃棄物の回収、選別の責任
 - ・ 廃棄物が適切な体制で手早く片付けられている事を保証する。
 - ・ リサイクル場の活性化
 - ・ 適したリサイクル場建設の為に会社の支持

・ 新テクノロジーに関する情報の発信

* 地方自治体が政治的に強い役割を果たす国

→ 政府に国内レベルでの EPR プログラムの効果のフィードバックを与えることができる。

EPR ポリシーは地方自治体に新たな異なる責任をおく。

そしてその責任は明確に定義されなければならない。

EPR プログラムの下での地方自治体の役割と責任は明確に定義

されなければならない。

4.10 消費者

EPR プログラムを構成する際、消費者の選択を考慮することは重要。

- コミュニケーション戦略：EPR の利益、EPR に何が期待されているか、という事への消費者の理解を高め、その役割と責任についての理解を高める補助的手段である。

EPR プログラムに関するデータや情報の譲渡

EPR プログラムに貢献するために消費者ができることは何か、ということを経営者に伝える。

消費者に「責任問題の重要性の認識」と「環境に対する関心」を高めさせ、消費者を EPR にひきつけておく事を可能にする。

構成員や組織的なコミュニケーション案の欠如は EPR プログラムの効果を危険にさらす事になる。

EPR プログラムの成功には消費者にとっての利便性が必要。

↓

国民の参加を確実に促す

4.11 小売業者の役割

* 小売業者の役割 → 明確に定義されるべき

- 役割
 - ・ 製品の回収
 - ・ 負債・費用の回収
 - ・ 返済金の用意
 - ・ 棚に並べる製品の選択、在庫

消費者にEPRプログラム製品、消費者の役割についての情報を供給する事ができる。→情報を広める戦略として不可欠

消費者に情報を流す重要な水路的役割。

生産者と消費者との間の情報の溝(gap)の橋渡しとなる。

4.12 PRO

PRO：第三者機関である。

使用済み製品の管理と回収にとって効果的な組織となりうる。

PROが異なるシステムを設立している生産者に代わって、製品の回収と管理に役立つオプションとなることができる。

- PROを創設する必要性 → 以下のことがらに依存
 - ・ 政策手段の選択
 - ・ 生産グループ・生産者と輸入業者の数
 - ・ 回収される予定のリサイクル済み材料
- PROの役割

さまざまな回収システムの管理を超えて拡大する機能をもつ

* 生産者と消費者に環境に対する教育と訓練を与える。

* EPRプログラムの下で委任された費用の回収や他の責任の保有。

○ 実施中PROの料金回収形態

生産者からの直接回収 = 商標という形態 e.g.) エコマーク

* 料金構造はPROによって設定されるべき

→ EPRポリシーの目標と目的を達成するために行動を起こした生産者に報酬を与えるため。

処分費用によってPRO料金が変化しても、処分が困難な製品を生産する会社にとって、結果的に比べてみてどちらの損が大きいかは競合的な法律や政策の下では問題ではない。

e.g.) 容器包装回収システム

容器一単位あたりの基準費用を設定 → 生産者にインセンティブを与えない。

どのようにしたら生産者に環境を配慮した製品設計を促せるか？

→ 材料の重量や質に基づいて費用を決める

ドイツの Duales System Deutschland (DSD)

→ 契約を制定する際の資金が重要な問題

(DSDの構造と管理から学んだ教訓：Annex 12 参照)

4.13 まとめ

1. EPRの下では物理的責任と金銭的責任という2つの責任があり、全面的または部分的に適応される。

2. 生産者とは、原料の選択や製品の設計において絶大な影響力を持つ者として定義される。

生産者とは、製造業者、ブランド会社、または輸入業者そして時には包装の容器に入れる側である。

3. 政府は責任のモデルを選択し、明確な責任を割り当てる必要がある。
4. 製品連鎖全体に亘る行為者間の意思疎通や協調関係は、EPR 政策の成功のために重要である。
5. 生産者の責任の範囲は、EPR 政策を計画する際の重要な決定ポイントである。
6. 責任の割り当てにおける決定は、政策目標、製品の特徴、市場の活発性、製品連鎖全体に亘る行為者、政策を実行するために必要な手段に基づき行われるべきである。
7. 政府は政策の枠組みを決定する事ができ、矛盾する政策を削除すること & EPR を拡大するために政策を拡大、増加させることで EPR の効果に貢献できる。
8. 地方自治体は EPR の下、重要な役割を果たす。これは生産者、PRO、そして参加役割の協調に対する役割と関係を含める。地方自治体の EPR の下での役割と責任は明確に定義されなければならない。
9. 消費者は EPR でとても重要な役割を果たす。テイクバックでは消費者に彼らの役割を知らせ、参加の重要性の理解は絶対に必要である。EPR の成功については、消費者にとっての必要性が必要である。
10. EPR プログラムの背景の中で、小売り業者の役割は設立されるべきである。小売業者は消費者に情報を流す重要な水路的手段、生産者と消費者の間の情報の溝の橋渡しとなりうる。
11. テイクバックプログラムでは PRO は異なるシステムを設立している生産者に代わって、製品の回収と管理に役立つオプションとなりうる。
また PRO はデポジット・リファンド制や上級の処分費用案を管理するために創設されたこともありうる。
12. もし PRO が創設されたら、政府と PRO の役割は十分に定義される必要がある。